

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	中国財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第33期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社秋川牧園
【英訳名】	AKIKAWA FOODS & FARMS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 秋川 正
【本店の所在の場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部次長 原田 良人
【最寄りの連絡場所】	山口県山口市仁保下郷317番地
【電話番号】	083(929)0630
【事務連絡者氏名】	経営管理部次長 原田 良人
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第32期 第1四半期連結 累計期間	第33期 第1四半期連結 累計期間	第32期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	1,037,388	1,043,343	4,276,597
経常利益又は経常損失() (千円)	10,167	4,194	40,962
四半期(当期)純利益又は四半期純損失 () (千円)	10,573	8,494	15,195
四半期包括利益又は包括利益(千円)	13,661	8,602	10,479
純資産額(千円)	1,268,168	1,271,187	1,292,309
総資産額(千円)	3,977,710	3,983,410	4,047,050
1株当たり四半期(当期)純利益金額又 は1株当たり四半期純損失金額() (円)	2.53	2.03	3.64
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	31.9	31.9	31.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第32期第1四半期連結累計期間及び第33期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第32期の潜在株式調整後1株あたり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第32期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による、サプライチェーンの寸断に伴う生産の落ち込み、供給制約による輸出の減少、自粛ムードによる個人消費低下のほか、電力供給不安などを背景に経済活動が急速に悪化し、景気動向を見極めるには非常に困難な状況となりました。

食品業界におきましては、一部の食品から基準値を上回る放射能が検出されたことや、生牛肉による食中毒事件の発生などにより、消費者の食品の安全性に対する意識が高まってきております。

このような状況の中、当社の主たる販売先である産直型の生活協同組合及び宅配会社に対する主力の鶏肉の販売は、前年同期と比べ堅調に推移いたしました。利益面につきましては、鶏卵の需給バランスの向上で余剰処理損が減少したことや、販売費及び一般管理費が減少したことにより、増益となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、10億43百万円（前年同期比0.6%増）、営業損失は2百万円（前年同期は6百万円の損失）、経常損失は4百万円（前年同期は10百万円の損失）、四半期純損失は8百万円（前年同期は10百万円の純損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

（産直畜産事業）

主に産直型の生活協同組合及び宅配会社へ販売している鶏肉、冷凍加工食品、鶏卵で構成される産直畜産事業につきましては、鶏肉の売上が前年同期を上回ったため、売上高は増加いたしました。利益面につきましては、鶏卵の余剰処理損が減少したものの、鶏肉の販売単価が下がったことにより減益となりました。

この結果、産直畜産事業の売上高は、8億72百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は81百万円（前年同期比11.0%減）となりました。

（総合宅配事業）

当社の食品を中心に会員宅に毎週商品をお届けする会員制宅配事業「スマイル生活」につきましては、会員数が伸長したことにより、売上高は微増となりましたが、粗利率の低下により、利益面では前期並みとなりました。

この結果、総合宅配事業の売上高は、1億46百万円（前年同期比0.5%増）、営業損失は8百万円（前年同期は8百万円の損失）となりました。

（牛乳製造卸売事業）

牛乳や乳製品を生産、販売している牛乳製造卸売事業につきましては、採算性に問題のあった量販店等への卸販売の縮小を行ったことにより売上高は減少いたしました。利益面につきましては、不採算販売の縮小の効果と、製造を担う(有)あきかわ牛乳のコスト削減による生産性向上が増益要因となりました。

この結果、牛乳製造卸売事業の売上高は、14百万円（前年同期比30.3%減）、営業損失は6百万円（前年同期は9百万円の損失）となりました。

(2)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、9,952千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,179,000	4,179,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	4,179,000	4,179,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日	-	4,179	-	714,150	-	381,030

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 5,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,169,000	4,169	-
単元未満株式	普通株式 5,000	-	-
発行済株式総数	普通株式 4,179,000	-	-
総株主の議決権	-	4,169	-

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)秋川牧園	山口県山口市仁保下郷317	5,000	-	5,000	0.12
計	-	5,000	-	5,000	0.12

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、西日本監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第32期連結会計年度 有限責任監査法人トーマツ

第33期第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間 西日本監査法人

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	833,499	806,186
受取手形及び売掛金	479,594	496,466
有価証券	20,433	20,437
商品及び製品	71,270	70,033
仕掛品	264,610	257,662
原材料及び貯蔵品	63,828	65,007
その他	205,277	172,052
貸倒引当金	754	770
流動資産合計	1,937,760	1,887,076
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	689,588	680,054
土地	791,008	791,648
建設仮勘定	19,645	23,551
その他(純額)	312,245	314,218
有形固定資産合計	1,812,488	1,809,472
無形固定資産		
のれん	95,467	91,090
その他	19,596	19,069
無形固定資産合計	115,063	110,159
投資その他の資産	181,738	176,702
固定資産合計	2,109,290	2,096,334
資産合計	4,047,050	3,983,410
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	369,527	326,565
短期借入金	1,451,735	1,437,468
未払法人税等	11,886	6,086
賞与引当金	20,014	15,580
その他	210,783	259,016
流動負債合計	2,063,947	2,044,717
固定負債		
長期借入金	397,717	364,516
退職給付引当金	168,128	171,869
役員退職慰労引当金	45,872	45,324
その他	79,075	85,795
固定負債合計	690,793	667,505
負債合計	2,754,740	2,712,223

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	714,150	714,150
資本剰余金	554,541	554,541
利益剰余金	26,184	5,169
自己株式	3,573	3,573
株主資本合計	1,291,303	1,270,288
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,006	899
その他の包括利益累計額合計	1,006	899
純資産合計	1,292,309	1,271,187
負債純資産合計	4,047,050	3,983,410

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	1,037,388	1,043,343
売上原価	804,979	818,763
売上総利益	232,408	224,579
販売費及び一般管理費	238,862	227,393
営業損失()	6,454	2,814
営業外収益		
受取利息	1,257	162
受取配当金	761	761
補填金収入	-	4,650
その他	1,154	810
営業外収益合計	3,172	6,384
営業外費用		
支払利息	6,858	7,736
その他	26	28
営業外費用合計	6,885	7,764
経常損失()	10,167	4,194
特別利益		
固定資産売却益	303	577
貸倒引当金戻入額	183	-
その他	-	62
特別利益合計	486	639
特別損失		
固定資産除却損	829	194
特別損失合計	829	194
税金等調整前四半期純損失()	10,509	3,749
法人税、住民税及び事業税	1,540	4,829
法人税等調整額	1,477	84
法人税等合計	63	4,745
少数株主損益調整前四半期純損失()	10,573	8,494
四半期純損失()	10,573	8,494

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	10,573	8,494
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	3,088	107
その他の包括利益合計	3,088	107
四半期包括利益	13,661	8,602
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,661	8,602

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
投資その他の資産	476千円	480千円

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

当社グループの主たる事業では、鍋シーズンやクリスマスなどの冬季に、鶏肉製品が集中して受注を受けるため、第3四半期連結会計期間の売上高は他の四半期連結会計期間の売上高と比べ著しく高くなるという季節の変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
減価償却費	29,566千円	59,675千円
のれんの償却額	3,465	4,377

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	12,523	3	平成22年3月31日	平成22年6月28日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	12,520	3	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	産直畜産	総合宅配	牛乳製造卸売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	861,283	145,374	21,109	1,027,766	9,621	1,037,388
セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,755	766	13,653	39,174	59,897	99,072
計	886,039	146,140	34,762	1,066,941	69,518	1,136,460
セグメント利益又は損失 ()	91,477	8,305	9,732	73,439	9,482	63,957

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牛乳宅配事業及び物流部門等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	73,439
「その他」の区分の利益	9,482
のれんの償却額	3,465
全社費用(注)	66,945
四半期連結損益計算書の営業損失()	6,454

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「産直畜産事業」セグメントにおいて、新たに連結子会社とした(有)篠目三谷の株式取得に伴い、当第1四半期連結累計期間において、のれんが52,694千円増加しております。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	産直畜産	総合宅配	牛乳製造卸売	計		
売上高						
外部顧客への売上高	872,020	146,070	14,716	1,032,808	10,534	1,043,343
セグメント間の内部売上高 又は振替高	24,237	729	14,185	39,152	60,297	99,449
計	896,258	146,799	28,901	1,071,960	70,832	1,142,792
セグメント利益又は損失 ()	81,431	8,885	6,678	65,868	2,528	63,340

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、牛乳宅配事業及び物流部門等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	65,868
「その他」の区分の利益	2,528
のれんの償却額	4,377
全社費用(注)	61,776
四半期連結損益計算書の営業損失()	2,814

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び品質管理費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	2円53銭	2円03銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	10,573	8,494
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	10,573	8,494
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,174	4,173

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月9日

株式会社秋川牧園
取締役会 御中

西日本監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 梶田 滋 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 大藪 俊治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社秋川牧園の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析の手續その他の四半期レビュー手續が実施される。四半期レビュー手續は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手續である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社秋川牧園及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成22年8月3日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成23年6月24日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。